



宮川 博先生

高校 4 回 倉持守三郎

昭和 25 年 3 月、新人大会の決勝戦において、浦和市立高校に 11 対 0 と大勝し、幸先の良いスタートを切った年であった。当時部長であった田中一先生から“4 月から（東京）高等師範でサッカーをやっていた体育の先生が、本校に来られることになった”という話を聞いたのである。練習計画は自分達で立て、たまに来られる先輩の指導を唯一の頼みにしていた当時のサッカー部にとって、この上ない喜びであり、期待するものも絶大であったことは言うまでもない。これは、単に部員のみならず、学校としての期待でもあったことを、後日宮川先生が話されている。

当時の五十里秋三校長が、直々に東京教育大学体育学部の今村嘉雄教授を通して話を進められ、遠く愛媛県から埼玉県へと転勤されたことでも伺える。着任早々、五十里校長が「サッカー部の面倒は貴方が見てくれ」と命じられたのであった。

着任して間もなく、グラウンドに来ら

れた宮川先生は、半袖シャツに半パンツ、そしてオレンジと縦縞のストッキングとサッカーシューズを付け、誠に頼もしい先生でありコーチ（当時監督部長は田中先生）であったことを鮮明に記憶している。以後、宮川先生がサッカー部の練習に出てこられるときは、必ず生徒と同じ服装で（トレーニングウェアは着用しなかった）グラウンドに立たれていたのである。これは、私が浦高に勤務して間もなくの頃（昭和 32 年・33 年頃）恩師である増田三男先生が私に対して「宮川先生は素晴らしい指導者ですよ。グラウンドに立たれる時は常に生徒と同じ服装で指導していました」と聞かされた時、同じ指導者として赤面のいたり深く反省させられたのである。

昭和 25 年の学徒大会は、新人大会で大勝した浦和市立高校に 1 対 0 で敗けたが、秋の県民大会では優勝して、国体にも出場することが決まった。併せて浦和クラブも第 5 回名古屋国体に出場することになった。宮川先生も浦和クラブのメンバーとして出場、守備の要として活躍され、2 回戦で優勝した関学クラブに敗れたが、善戦して浦和クラブ強しの印象を全国に知らしめたのである。

昭和 26 年度からは監督・部長としてサッカー部の本格的指導に当たら

れることになった。元会長故太田 稔氏、故轡田三男氏等をコーチングスタッフとし、また夏休みには、特別コーチとして故二宮運次氏（当時立教大学監督）を招聘して合宿訓練を行った。このことは、当時としては画期的な計画であり、この年浦高が 52 連勝 3 冠王に輝くことができた基礎となっている。

平素は言葉少なであるが、人情味にあふれ大切なことはきちんと言い、自ら率先して実行する人柄は、多くの生徒から尊敬され、慕われているところである。

昭和 31 年、病後復帰してからは、サッカー部の部長として、また高体連の幹事として体育・スポーツ界に大きく貢献している。

特に昭和 48 年からは、県高体連の第五代理事長として、高校スポーツ界のリーダーを 6 年間務め、更に県立上尾南高校長、上尾高校長を歴任し、昭和 61 年 3 月に退職されて、長い教員生活にピリオドを打たれた。その間、高体連副会長、高体連サッカー専門部長の要職を務め、現在も県サッカー協会副会長として後輩の指導に当たっておられる。